



コブシ

65 編は **ダビデの詩、賛歌** ですが、**歌** とも記されています。賛歌と歌とではどういう違いがあるのでしょうか。詠誦するだけではなく、詠唱(アリア)、あるいは合唱として、美しい豊かなメロディをもって捧げたからではないでしょうか。ダビデの詩では 30 編が「神殿奉獻の歌」とされていますが、これまでは、コラの子の詩の 46, 48 編が **歌** と記されています。いずれも壮大な賛美の歌です。

65 編は 4 連からなり、各連は全く雰囲気違います。1 連は「シオンにいます神」がキーワードに感じられます。詩人は

沈黙してあなたに向かい、賛美をささげます。シオンにいます神よ。あなたに満願の献げ物をささげます。(65:2) と神にのみ心を傾けて礼拝し、しかも満願の捧げ物を捧げていますから、一定期間を定めて祈り続けてきたのでしょう。ここでは詩人は **シオンにいます神よ** と呼びかけています。シオンとはダビデの町、エルサレムを指します。やっとダビデはシオンに拠点を得て、共にいて下さる神として、ダビデらしい思いで呼びかけたのでしょうか。普遍の神を信じる私としては神の御座の位置を特定化するようで、そのようには賛美し難いものがあります。

2 連は「赦しへの感謝」が圧倒的です。罪も過ちもないと訴えていた詩人も、弱り、苦しみ、悩み、渴き果て、沈黙する時、自分の姿が見えてきます。**罪の数々がわたしを圧倒します。背いたわたしたちを／あなたは贖ってくださいます。(65:4)** 主のもとで沈黙する時、自分自身、愛する家族、同胞の数々の罪、度々の背信を思い知らされます。それにもかかわらず赦し、受け入れ、共にいて下さる神の赦しに感謝を捧げています。**いかに幸いなことでしょう／あなたに選ばれ、近づけられ／あなたの庭に宿る人は。恵みの溢れるあなたの家、聖なる神殿によって／わたしたちが満ち足りるように。(65:5)**

3 連は「地の果てからの思い」です。神の御心により、神から遠く離れた地の果てのような場に立たされる時を経験します。最も心細く、弱さを感じる時と思わずにいられません。**遠い海、地の果てに至るまで／すべてのものがあなたに依り頼みます。(65:6)** 遥か遠くに **雄々しい山々** が見えても、足元の **大海のどよめき、波のどよめき** に巻き込まれるかもしれません。しかし **お与えになる多くのしるしを見て／地の果てに住む民は畏れ敬い／朝と夕べの出で立つところには／喜びの歌が響きます。(65:9)** と、地の果てにいても、なお、神の徴をみて喜びますと賛美します。

4 連は「理想郷である神の地」を賛美しています。**神の水路は水をたたえ、地は穀物を備えます。あなたがそのように地を備え／畝を潤し、土をならし／豊かな雨を注いで柔らかにし／芽生えたものを祝福してくださるからです。あなたの過ぎ行かれる跡には油が滴っています。荒れ野の原にも滴り／どの丘も喜びを帯とし／牧場は羊の群れに装われ／谷は麦に覆われています。ものみな歌い、喜びの叫びをあげています。**

『讚美歌 21』では 137「聖なる主の家で」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-12-03> がジュネーブ詩編歌をそのまま採用しています。ジュネーブ詩編歌は装飾音もあるリコーダーの美しい演奏です。 <https://www.youtube.com/watch?v=nGtlxVHBT5w&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=66>